

## 組織的、継続的な学力向上の取組

京丹波町立下山小学校

### 全国学力・学習状況調査の結果における特徴

#### 1 国語

国語Aでは、読むこと、書くこと、言語事項の観点在全国平均を上回り、国語Bでは、国語への関心・意欲・態度、話すこと・聞くことの観点を含む全ての観点在全国平均を上回っていた。昨年度の本校の調査結果と比較しても向上が見られ、基礎・基本の力とともに、活用する力にも改善が見られる。

#### 2 算数

算数Aでは、数と計算、量と測定、図形の領域が、算数Bでは、数と計算、図形、数量関係の領域が全国平均を上回っていた。特に、算数Bの記述式問題で従来、課題が見られたが、本年度は「最大値に注目して、棒グラフを枠の中に表すことができない理由を記述する」問題においても全国平均を上回った。基礎・基本の力とともに、活用する力にも改善が見られ、自分の考えを説明・表現する力も向上している。

#### 3 児童質問紙

授業に関わっては、「学習内容を振り返る授業をよくおこなっていた」、「自分の考えを発表する機会が与えられていた」、「算数の授業で公式やきまりを習う時に、そのわけを理解するようにしている」の項目に全児童が肯定的な回答をした。学習内容を振り返ったり、自分の考えを発表したりする授業に、児童が意欲を持って取り組んでいることがうかがえる。また、「国語、算数の勉強は大切だと思っている」、「国語、算数で学習したことは、社会に出た時に役に立つと考えている」の項目にも全児童が肯定的な回答を示した。

### 全国学力・学習状況調査の結果に寄与したと考えられる取組

#### 授業における取組

#### 1 学力向上にむけた研修会の実施

##### (1) 全国学力・学習状況調査や京都府学力診断テスト等の学力調査の活用

学力調査等を児童が学習してきた内容を復習するよい機会と捉えている。児童にこうした調査が行われることを伝え、既習事項の確認の機会として、調査やテストに臨ませている。テスト実施後は、すぐに校内採点を行い、研修会において結果を分析し、成果と課題を明らかにして、その後の児童への指導に役立てている。

##### (2) 研究指定校及び教育実践推進校としての研究実践

京都府南丹教育局「京都丹波の学力向上研究指定校」及び京丹波町教育委員会「教育実践推進校」の研究指定を受けて、研究実践を組織的に行い、授業改善を積極的に進めている。

##### (3) 学力向上や授業改善のための研修会の実施

京都府教育委員会、南丹教育局そして京丹波町教育委員会等の実施する学力向上や授業改善に係わる研修会等に積極的に参加し、学んだことを校内研修会で教職員にすぐに伝え、情報や課題意識の共有化を図っている。

#### 2 算数科を中心とした授業改善

##### (1) 算数的活動、問題解決、言語活動の重視

本校では、算数的活動を、既習の算数の知識を基にして数や図形の性質などを見いだす活動、日常生活で算数を利用する活動、そして算数の用語や式などを用いて自分なりに説明し伝え合う活動であると捉えている。その上で、算数的活動は、問題解決を通して行うこと、言語活動を伴って行うことが重要であると考え、授業実践を行い、実践例を整理してきている。

## (2) 学習展開と板書計画

問題解決的な学習を重視し、1時間の学習の過程を、「めあての確認」、「ひとり学び」、「みんな学び」、「まとめ」、「たしかめ」、「振り返り」としている。授業開始時には、授業の展開が一目で分かるように、学習の過程をカードにし、ホワイトボードで提示しておき、授業の展開とともにカードを黒板に移動させている。また、授業の終了時には1時間の授業の内容が一目で分かるような板書に努めている。



## (3) 低・中・高学年のノート指導

学習の過程に沿ったノート記入とし、低・中・高学年毎にノートのまとめ方を提示し、取り組ませている。ノートがわかりやすくまとめられるようになると、児童は自分の考えを整理できるようになり、思考力や表現力も伸びてくる。また、家庭等で取り組む自主的な学習も充実するようになると考えている。

## (4) 振り返りの時間の確保

児童自ら学習の到達状況を客観的に捉えられるように、授業の最後に振り返りの時間を確保し、分かったことや気付いたことを自分の言葉で書かせている。教員は児童の到達状況を把握・評価し、励ましの言葉を書き込むことで、児童の学習意欲を喚起している。

## 3 授業規律の徹底

### (1) 学習準備（持ち物・机の上・引き出しの中）

年度当初に学用品や持ち物等についての下山小学校のきまりを全教職員で確認している。また、児童が自分でも確認できるように「下山っ子の机」とした手本を1人ずつに渡して、机上の準備や引き出しの中の整理整頓ができるようにしている。

### (2) 授業中の話し方・聞き方についての指導

発言をする時や発言を聞く時のルールを指導している。発言の仕方の例を示して、児童が発表しやすくしている。また、話を聞く時には、話をする人の方に体を向け、しっかり話を聞くように指導している。

引き出しの中と机の上



## 授業以外の取組

### 1 全校で取り組む学力向上の取組

#### (1) 漢字・算数チャレンジの取組

習熟を図ることをねらいとしてくり返し復習に取り組み、毎学期末にその学期に学習した漢字と算数のまとめのテストを行っている。家庭にも協力を求めながら、くり返し復習に取り組み、習熟を図っている。

#### (2) わくわくタイムの取組

全学年、学校裁量における創意ある教育活動の時間を「わくわくタイム」と名付け、学力補充の時間として活用している。主に、国語と算数の学習プリントを用意して習熟を図っている。

#### (3) 全校スピーチ

大きな集団の中でも自分の考えが発表できるように、全ての児童が全校集会でスピーチする機会を設けている。各学年で、行事や日常の出来事、学習したことなどからテーマを決めて、取り組んでいる。

#### (4) 読書指導、読み聞かせ

教室ではブックバッグを机の横にかけ、いつでも読書できる環境を作っている。また、読書支援員と連携し、読書指導の充実や朝の読書、外部指導者による毎週木曜日の朝の会の読み聞かせにも取り組み、児童が本を好きになり、読書に親しめるようにしている。

### 2 子どもの知的好奇心をくすぐる体験授業

京都府教育委員会の「子どもの知的好奇心をくすぐる体験授業」を積極的に活用し、京都大学などから講師を招いて、「七夕授業～星の世界～」や「ミステリーや映画の中の理科」などを実施し、児童の科学への知的好奇心を喚起している。

### 3 保護者との連携による家庭学習の手引きの活用

家庭学習の内容やポイントなどを示した「家庭学習のてびき」を4月に配付し、児童に指導している。年度当初の学級懇談会資料として読み合わせる保護者啓発、家庭での掲示依頼など家庭と連携しながら、児童に家庭学習の習慣が身に付くように努めている。